

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	歴史A(0213)	
科目基礎情報							
科目番号	2M03			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	産業システム工学科機械システムデザインコース			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	笹山晴生ほか『詳説日本史 改訂版』						
担当教員	中村 泰朗						
到達目標							
・ 古代から近世にかけて、日本史に関する専門用語や知識を習得する。 ・ 古代から近世にかけて、日本と世界の関係性を理解する。 ・ 古代から近世にかけて、日本と世界の文化を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本史に関する専門用語や知識を理解し、説明できる。			日本史に関する専門用語や知識を理解できる。		日本史に関する専門用語や知識を理解できない。	
評価項目2	日本と世界の関係性について理解し、説明できる			日本と世界の関係性について理解できる。		日本と世界の関係性について理解できない。	
評価項目3	日本と世界の文化について理解し説明できる。			日本と世界の文化について理解できる。		日本と世界の文化について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP1 地域志向 ○							
教育方法等							
概要	【開講学期】春学期週4時間 ・ 古代から近世にかけて、日本史に関する専門用語や知識を習得する。 ・ 古代から近世にかけて、日本と世界の関係性を理解する。 ・ 古代から近世にかけて、日本と世界の文化を理解する。						
授業の進め方・方法	・ 配布プリントおよびスライドを中心とした講義形式を採る。 ・ 総合評価は平常点（20%）、中間試験（30%）と学期末の到達度試験（50%）の割合で行う。 ・ 総合評価を100点満点とし、60点以上を合格とする。						
注意点	・ 身近な歴史に関わるもの（例えば地元の伝統工芸品など）に対して、興味関心をもっておくこと。 ・ 「なぜ」、「どうして」という気持ちを大切にし、授業内容について分からなかったことは積極的に教員へと質問する。また、もっと知りたいと思ったことは自分自身で調べてみることも大切である。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	古代の日本①		古代日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		2週	古代の日本②		古代日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		3週	古代の日本③		古代日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		4週	古代の日本④		古代日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		5週	古代の日本⑤		古代日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		6週	中世の日本①		中世日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		7週	中世の日本②		中世日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		8週	中世の日本③		中世日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
	2ndQ	9週	中間試験				
		10週	中世の日本④		中世日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		11週	中世の日本⑤		中世日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		12週	中世の日本⑥		中世日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		13週	近世の日本①		近世日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		14週	近世の日本②		近世日本の成り立ちと文化について、諸外国の情勢と関連付けながら理解できる。		
		15週	到達度試験 （答案返却とまとめ）				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。		3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		3	

工学基礎	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)および 技術史	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)および 技術史	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
			科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	
	グローバリ ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバリ ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
			異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
評価割合					
	授業中の発言		中間試験	到達度試験	合計
総合評価割合	20		30	50	100
基礎的能力	20		30	50	100